

家庭教師の技術

青戸一之 西岡杏誠

このメソッドで、
私も上手に褒めて
上手に叱って
もらいました

小倉優子
推薦!!!

受験にも
仕事にも役立つ!

プロ家庭教師の
勉強術・教育法
を完全公開!

家庭教師の技術

青戸一之・西岡孝誠

星海社

313



はじめに

みなさんは、「家庭教師」についてどれぐらい知っていますか？

恐らくテレビCMやチラシ広告などで、その存在を一度は聞いたことがあると思います。

でも実際、家庭教師が何をどのように教えているかまでご存じの方は、どれくらいいるでしょうか？

みなさんが知っている通り、家庭教師は生徒に勉強を教え、成績を上げるのが仕事です。

しかし、家庭教師と生徒は対一でやりとりをすることが多いため、実際に家庭教師に勉強を教わったことがある人以外は、家庭教師がどのようなテクニックを駆使して生

徒を伸ばしているか、ほとんど知らないのではないのでしょうか。また、家庭教師をしている人や家庭教師に教わったことがある人、現在教わっている人でも、せいぜい一人や二人のやり方を知っているくらいだと思います。

いわば、家庭教師の技術は密室の中に隠されているのです。

それを体系的にまとめ、みなさんにお伝えするのが本書の目的です。

この本では、教育事業を中心に活動する東大生集団「東大カルペ・デイム」の集合知を通して、家庭教師の技術を解説します。著者を務めるのは、30歳から東大受験に挑戦し、15年を超える家庭教師・塾講師歴を持つ青戸あおと一之と、『東大読書』シリーズなど数十冊の書籍に携わってきた現役東大生作家の西岡壱誠にしおかいつせいです。

家庭教師に勉強を教わろうと考えている受験生やその親御さん、家庭教師の技術を参考にしようと思っっている学校や塾の先生方、家庭教師をやろうと思っっている方など、さまざまな方に家庭教師の技術をお教えしていきたいと思います。

各章の解説をすると、まず最初の「第0章 教え方は生徒のタイプでまったく変わる」

は、家庭教師がどのように生徒の勉強のタイプを見極め、それぞれの生徒に最適な教え方を取っているのかを解説します。

「第1章 ティーチングスキル」では、学校とも塾とも違う、マンツーマンだからこそできる家庭教師のきめ細やかな勉強の教え方について詳述しました。

「第2章 コーチングスキル」では、短い授業時間だけでなく、それ以外の時間も生徒が自分で勉強して成績を上げるために必要なペースメイキングの技術をまとめました。

「第3章 コミュニケーションスキル」では、ティーチングとコーチングがしっかりと効果を上げるために不可欠な、家庭教師が生徒としっかり意思疎通をするための実践的方法について述べました。

「第4章 家庭教師のお悩み相談 Q & A」は、家庭教師をするうえでありがちな悩みやトラブルについて、著者陣の経験をもとにまとめています。

さて、本題に入る前に「はじめに」でお伝えしたいことはもう1つあります。

それは「家庭教師の技術はビジネススキルにもなる」ということです。

この本は、家庭教師のスキルが得られる本です。しかし、それだけではありません。実は、家庭教師の技術というのは、社会に出ても重要になってくるような点を押さえており、仕事で必要なスキルを修得することにもなるのです。

まず、家庭教師は誰かに勉強を教える必要がありますが、「人に何かを教える技術」、つまりティーチングの技術は、会社に入ったときに必要となる「説明」のスキルにつながります。同僚や後輩に対して何かを説明するときには、「これはこうするんだよ」と説明をしていかなければならないですよ。

次に、家庭教師は勉強を教えるだけでなく、生徒の勉強の進捗管理しんちよくをしなければなりません。「人の進捗を管理する技術」つまりコーチングのための技術は、実際の仕事でプロジェクトを回していく上で必須になる「マネジメント」のスキルにつながりますよね。プロジェクトでは、「○○さん、この仕事いつまでにやっておいて」「△△くん、この仕事の進捗大丈夫？ 締め切りに間に合わなそうだったら早めにアラート出してね！」と確認・調整する必要があります。こういう進捗管理のスキルは、ビジネスマンには必須の能力になります。

最後に、家庭教師は生徒との信頼関係を構築し、生徒だけでなく親御さんとのコミュニケーションを密に取っていく必要があります。「人に信頼される話し方をする技術」、つまりコミュニケーションスキルは、ビジネスの現場ではなくてはならないスキルになります。取引先相手にどんなトークをすれば信頼してもらえるのか、「この人と一緒に仕事をしたい」と思ってもらうためにはどうすればいいのか。家庭教師の技術は、こういうところでも役立ちます。

このように、家庭教師の技術はそのままビジネススキルになると言っても過言ではないのです。

勉強だけでなく仕事での教え方に悩んでいる方には、「先生」を「上司」や「先輩」に、「生徒」を「部下」や「後輩」と読み替えて本書を読んで実践していただければ、きっと教え方の技術が向上すると思います。

というわけで改めて、本書『家庭教師の技術』では、家庭教師が実践している、勉強にもビジネスにも役立つ「教え方」の技術を解説していきます。

目次

はじめに 3

第0章 教え方は生徒のタイプでまったく変わる 13

勉強の仕方の2タイプ 14

理解の仕方の2タイプ 21

早く納得するのが本当にいいのか 26

教える側のタイプと教わる側のタイプ 30

第1章 ティーチングスキル 生徒を伸ばす教え方の鉄則5カ条 33

第2章

コーチングスキル

一人で走る準備を整えるコーチングの鉄則14カ条

59

教え方の鉄則1 最初にゴールまでの道筋を示すべし 34

教え方の鉄則2 教える側が話す量は最小限に抑えるべし 37

教え方の鉄則3 ノートの取り方にも気を配るべし 43

教え方の鉄則4 生徒ができない原因は、自分の思考回路を分解して考えるべし 49

教え方の鉄則5 自立につながる課題を最後に与えるべし 55

コーチングの鉄則1 勉強は「瞬間風速」ではなく「平均風速」 60

コーチングの鉄則2 家庭教師の役割は「火加減調整」 63

コーチングの鉄則3 並走しながらメンタルを確認する 66

コーチングの鉄則4 家庭教師の最大の仕事は「習慣づけ」 69

コーチングの鉄則5 スケジュール管理は大人の役目 71

| | | |
|-------------|-----------------|----|
| コーチングの鉄則 6 | 最終的な目標から逆算する | 72 |
| コーチングの鉄則 7 | 月当たりの目標を決める | 75 |
| コーチングの鉄則 8 | 可処分時間を見える化する | 76 |
| コーチングの鉄則 9 | やることリストを作る | 78 |
| コーチングの鉄則 10 | 計画にはバッファを設ける | 80 |
| コーチングの鉄則 11 | 勉強を生活の中に組み込む | 81 |
| コーチングの鉄則 12 | 勉強のタイミングを固定する | 82 |
| コーチングの鉄則 13 | 勉強前のルーティンを決める | 83 |
| コーチングの鉄則 14 | 休むときはちゃんと休んでもらう | 84 |

第3章 コミュニケーションスキル 鉄板の質問3選と褒め方3カ条 87

鉄板の質問1 好きなこと・ものを聞く 88

第4章

家庭教師のお悩み相談 Q & A

113

鉄板の質問 2 苦手教科はいつから苦手になったかを聞く 92

鉄板の質問 3 生徒自身の目標を聞く 94

褒め方の鉄則 1 とにかく褒める 99

褒め方の鉄則 2 変化や成長を褒める 104

褒め方の鉄則 3 結果より過程を褒める 107

Q 生徒が全然話をしてくれない。どうすればいい？ 114

Q 生徒が心を開いてくれない。どうすればいい？ 116

Q 生徒の成績を上げるために意識するべきことは？ 118

Q 生徒を叱るとき、どうすればいい？ 121

Q 生徒の成績がなかなか伸びない。どうすればいい？ 124

Q どの教科から勉強を始めるべきか？ 131

Q 生徒が悩んでいるときはどうアドバイスする？ 133

Q 過去問はどこまで解けばいい？ 138

第0章

教え方は生徒のタイプでまったく変わる

家庭教師が生徒と向き合うとき、勉強を教える前にやっていることがあります。

それは目の前の生徒に向き合い、どんなタイプなのかを理解することです。学校や塾と違って一対一なので、生徒ごとの特徴を理解したうえで長所を伸ばし短所を補う、それが家庭教師の教え方です。

なのでまず最初に、生徒一人一人の教え方を左右する「勉強の仕方」と「理解の仕方」についてどのようなタイプがあるのか、どのように見分けるのか、そしてタイプごとにどう教え方を変えていくのかを、みなさんに共有させていただければと思います。

勉強の仕方の2タイプ

まず、勉強の仕方には2つのタイプがあります。

「勉強のやり方なんて1つしかないんじゃないの？」と考える人もいると思いますが、実は結構分かれます。

例えば、あれこれと指示を出してしまうと「えー、めんどくさそう」と反発してしまうタイプもいるでしょう。逆に、細かく指示を出さないと、「これってどうすればいいで

すか？」と不安になってしまいうタイプもいると思います。

これを見分けるには、宿題を出すときの反応を見ているとわかりやすいです。

「この問題集、5ページから21ページまでやっておいてね」と言ったとします。それに対して、「これって、どれくらいの時間をかけてやればいいですか?」「わからない問題があったときにはどうすればいいですか?」などと、問題を解く前に生徒からあれこれ質問してくるタイプもいます。

逆に、「はい、わかりました」と何の疑問や文句も言わない代わりに、おおざっぱ大雑把にやってしまう子がいます。わからないところは飛ばしてやってしまうのですね。

このように勉強の仕方は、慎重に指示を待ちたいタイプと一気に終わらせてしまいたいタイプの2つに分かれます。

この2つのタイプを整理すると、次のようになります。

ウサギ型——自分が興味を持ったことを好きに進めたいタイプ

カメ型——慎重で丁寧ていねいに物事を進めたいタイプ

みなさんはどちらのタイプでしょうか？

「ウサギとカメ」の有名なエピソードに沿って考えていけば、最後に勝つカメ型のほうがいいのかもしれないが、そんなことはありません。ウサギ型の方は瞬発力があり、速く物事を終わらせることができます。東大生にもどちらのタイプもいて、どの人もそのタイプに合った勉強を行った結果、しっかりと成果を出していました。では、この2つの勉強の仕方に応じて、最適な教え方はどう変わってくるのでしょうか？

まず、カメ型の生徒から見えていきましょう。

カメ型は丁寧に物事を積み上げていきたいタイプです。ですから、カメ型で結果を出す人は、基礎を積み重ねるのは得意で、英単語や英文法、数学の計算問題や国語の漢字の問題などでは失点が珍しい、という人が多いです。

しかし逆に、積み上げていきたいタイプだからこそ、応用問題においては少し気後れきおくしてしまうところがあります。簡単な問題を何度も解くのは苦ではないけれど、応用問

題を解いて「できない」と挫折してしまうのが嫌だということです。

自分が解けない問題や応用問題はしっかりと勉強してから解きたい——これを裏返すと、いつまでも基礎ばかりで応用になかなか進めない。これがカメ型の弱点だと言えるでしょう。そこを補ってあげるのが家庭教師の仕事です。

例えば宿題では基礎問題を出し、実際に向き合って勉強を教えるときには応用問題を
出題してその解説をしていきましょう。

また、カメ型には指示を細かくしないと努力できないという弱点もあります。こういうときこそ、家庭教師の腕の見せどころですね。「いい、この問題集のこのページをこう
いうやり方でこの日までに終わらせてきてね」としっかり細かい指示を与えれば、非常に高いパフォーマンスを発揮してその通りに勉強するのは得意なのです。しかしその分、
ウサギ型のように自分から何かやり方を開発していくことは難しいようです。カメ型の
人は、このように指導する人や真似する対象がいれば強いのです。なので家庭教師として、
細かく指示を出してあげましょう。

というわけで総合するとカメ型の人向けの指導方法は、

- 基礎問題からコツコツ積み上げていくよう促すべし
 - 応用問題も解く習慣をつけてもらえるように、応用に挑むように促すべし
 - やり方を真似して実践していくのが得意なので、やり方を細かくアドバイスするほうが良い
- ということですね。

逆に、ウサギ型の人はどうのように勉強するのがいいのでしょうか？

ウサギ型は、応用問題などはゲーム感覚で解ける場合が多いです。簡単な問題よりも、難しい問題に燃える。だから自分のレベルよりも上の参考書を選んで、ちょっとあやふやな知識でも頑張つて進められるので必然的に学力も上がっていく……というタイプの勉強が得意です。

先ほどのカメ型の人が「基礎↓応用」の順番なのに対して、ウサギ型は「応用↓基礎」の順番なのです。

ウサギ型で結果を出す人の中には「英語の長文問題を解いて、その問題で出てきたわ

からない単語を覚えていくことで英単語を覚えたから、英単語帳は使ったことがない」なんて人もいるくらいです。

また、応用問題が得意なのでひらめきが求められる問題に対応しやすいのも特徴です。実際、「ひらめく」という言葉を多く使うのはウサギ型の人だと言われています。

反面、基礎問題においてはケアレスミスが多めになってしまいがちです。英文法や計算問題などで細かいミスをして点数が伸び悩んでしまう、なんてことがあります。伸び悩み、点数がカメラ型の人と比べてばらつきやすいです。こっちのテストではとても良かったけど、あっちのテストでは全然点が取れなかった、なんてことはかなり多いです。なので、しっかりと基礎の部分を徹底するよう指導しましょう。これには近道はなく、根気強く基礎の大切さを教えるのが一番だと思います。

また、カメラ型の逆で、計画を立てたり人の話を聞いたりしてその通りにやる、というのが不得意でもあります。だから、細かい指示を出されるよりも、「なんかいい感じにやっついてよ」と家庭教師の先生から言われたほうが楽だ、と思う人が大半でしょう。

そして勉強法も、独特なやり方を実践している人がとても多い印象を受けます。カメ

型の人が塾や先生のやり方をコピーしているのに対して、ウサギ型の人は独特かつ自分の工夫を開発して、それを実践している場合が多いです。

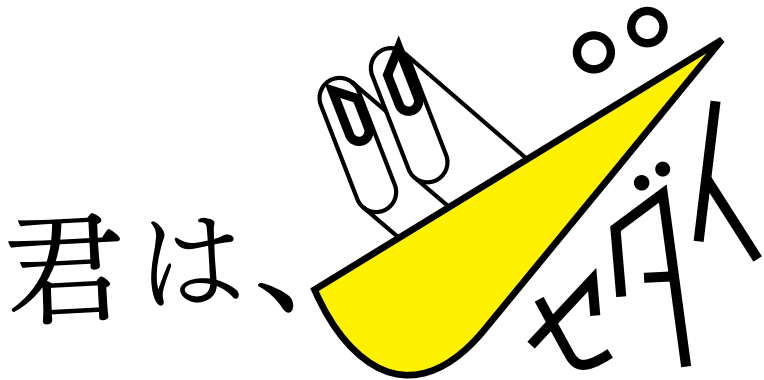
そのために、指導方法はなかなか難しいです。自己流のやり方を認めつつも、「でもここはこうしたほうがいいよ」とアドバイスをしていくのがいいわけですね。

というわけで総合すると、ウサギ型の人向けの指導方法は、

- 応用問題を解いてから基礎を作っていくやり方をおすすめするべし
- その上で、基礎が弱くなりがちでケアレスミスをしがちなることを自覚させるようにきちんとコミュニケーションを取っていくべし
- 自己流のやり方がある程度は認めつつ、アドバイスをしていくのがいい

ということになります。

いずれにせよ、まずは相対する生徒が、この2つのタイプのうちどちらの性質を持っている人なのかを、しっかり見極めることが重要です。



何と闘うか？ <https://ji-sedai.jp>

「ジセダイ」は、20代以下の若者に向けた、**行動機会提案サイト**です。読む→考える→行動する。このサイクルを、困難な時代にあっても前向きに自分の人生を切り開いていこうとする次世代の人間に向けて提供し続けます。

メインコンテンツ **ジセダイイベント**

著者に会える、同世代と話せるイベントを毎月開催中！ 行動機会提案サイトの真骨頂です！

ジセダイ総研

若手専門家による、事実に基いた、論点の明確な読み物を。「議論の始点」を供給するシンクタンク設立！

星海社新書試し読み

既刊・新刊を含む、すべての星海社新書が試し読み可能！

マーカー部分をクリックして、「ジセダイ」をチェック!!!

行動せよ!!!